

What are you doing now ?

入場無料

20

24

12

12木

22日

※12/16[月]は休館

出展者 Artists

大江正彦・OE Masahiko

大八木恒之・OYAGI Tsuneyuki

木村康一・KIMURA Koichi

清水貴久・SHIMIZU Takahisa

富塚純光・TOMIZUKA Yoshimitsu

長嶋柊・NAGASHIMA Tou

東本憲子・HIGASHIMOTO Noriko

ほんままい・HONMA Mai

森田博康・MORITA Hiroyasu

会場・京都市美術館別館 第2展示室(2階)

住所・〒606-8342 京都府京都市左京区岡崎最勝寺町13

時間・10:00—18:00(※最終日は16時まで/月曜休館)

主催・きょうと障害者文化芸術推進機構

協力・アトリエひこ、社会福祉法人修光学園、社会福祉法人かりがね福祉会、

社会福祉法人一羊会、長嶋柊作品展を応援する会、

社会福祉法人ノーマライゼーション協会 西淡路希望の家、

特定非営利活動法人希望の園、社会福祉法人からし種の会、

ザワメキサポートセンター(順不同)

会場構成・tamari architects 広報デザイン・タナカタツヤ

The Symbiosis Art Festival 2024

いま、なにしている？

2024年度 共生の芸術祭

## イベント

### ギャラリーツアー

内容	本展企画者(art space co-jinスタッフ)による 作品解説。
日程	12/14[土] 14:00-15:00 12/15[日] 14:00-15:00 12/21[土] 15:30-16:30 12/22[日] 14:00-15:00
予約	不要 ※手話通訳が必要な方は2日前までに予約を お願いします。(予約受付:info@co-jin.jp)
集合場所	京都市美術館別館 2階 第2展示室 受付

## 関連展覧会

### 2024年度「CONNECT ⇄」 ～アートでのびのび ひろがるわたし～

会期	11/29[金]ー12/15[日]
会場	京都市美術館別館含む 岡崎公園内文化施設7会場
主催	文化庁、京都新聞

アートを通して多様性や共生社会について考えるプロジェクト、  
2024年度「CONNECT ⇄」～アートでのびのび ひろがるわたし～  
と連携しています。

### Co-jin Collection -コジコレ- No.8 表現のてざわり

出品作家	郡山広明(郡山ヒロアキ)、高西勇、牧敦子
会期	10/16[水]ー12/22[日] ※月・火曜休廊
時間	10:00-18:00
会場	art space co-jin
主催	きょうと障害者文化芸術推進機構

### 第30回 京都とっておきの芸術祭

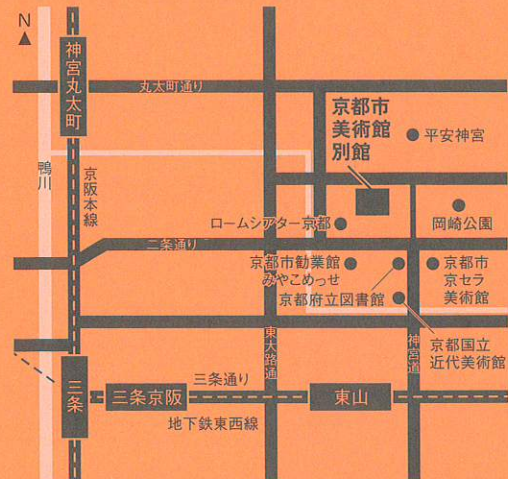
会期	11/29[金]ー12/1[日]
時間	10:00-17:00
会場	日図デザイン博物館(みやこめっせ地下1階)
主催	京都障害者芸術祭実行委員会
協力	きょうと障害者文化芸術推進機構

### 「清流の国ぎふ」文化祭2024

ともに・つなぐ・みらいへ ～清流文化の創造～

私たちは「清流の国ぎふ」文化祭2024年(2024.10.14- 11.24)を  
応援し、障害のある方々の芸術文化活動を盛り上げます。

## アクセス



### 京都市美術館別館

〒606-8342 京都市左京区岡崎最勝寺町13番地

- ・地下鉄 東西線「東山駅」下車徒歩1分
- ・専用駐車場なし。岡崎公演地下駐車場(有料)、みやこめっせ駐車場(有料)をご利用ください。
- ・市バス「岡崎公園 ロームシアター京都・みやこめっせ前」下車すぐ  
「岡崎公園 美術館・平安神宮前」下車 徒歩約5分

## お問い合わせ

art space co-jin

(きょうと障害者文化芸術推進機構 事務局)

〒602-0853 京都市上京区河原町通荒神口上ル宮垣町83 レ・フレール 1階

Tel & Fax 050-1110-7655 Mail info@co-jin.jp WEB <https://co-jin.jp/>



co-jin HP



展覧会ページ

時計の針はいつも「今」を指し、その前後には過去と未来があります。時計の針が、ぐるりと回って戻ってきたとしても、そこに一つとして同じ「今」はなく、私たちは常に新しい「今」と出会い続けています。

本展覧会で紹介する9名の作家もあなたも私も、「今」と出会い、そこで何かをしています。例えば、今あなたはこの文章を読んでいて、私はこの文章を書いています。大江正彦は黄色の絵の具をパレットにたっぷりを出しているところかもしれません。大八木恒之は日当たりの良い自室でオイルパステルを塗り重ねているかもしれないし、ほんままいは移動中のバスから鳥を眺めて次回作の構想を練っているかもしれません。森田博康は服を破り明日の準備をしているかもしれないし、東本憲子はプチプチに色鮮やかな点を落とし、木村康一は新たな妖怪を生み出すために粘土を握っているかもしれません。長嶋柊は丁寧な日記を描き終え、富塚純光は新しい物語を語り始め、清水貴久は人知れず手描きの値札シールをこっそりとなにかに貼り付けているかもしれません。

こうして想像を膨らませていくと、世界中すべての人が「今」と出会い続けているということに辿りつきます。その想像は途方もないものではありませんが、小さな想いを育てていくこと、それは同じ世界を共に生きていくことへの希望のようなものではないかと考えています。

出展者 Artists



### 大江正彦・OE Masahiko

所属・アトリエひこ 1965年生まれ。大阪府在住。

生まれつきの心臓疾患のため、じっとしていることの多かった大江は、幼い頃より絵を描くことが生活の一部となっていた。支援学校の卒業後は家にいる日々が続き、26歳の時、亀岡市のみずのき寮絵画教室へ母と共に通いはじめた。のちに母は、好きな絵を思い切り描いてほしい、同じような境遇の仲間がほしいと願い、大江が29歳の時に、自宅前の長屋でアトリエひこを開設した。大江は59歳の現在もアトリエで自宅で、毎日描き続けている。

〈黄色〉

### 大八木恒之・OYAGI Tsuneyuki

所属・社会福祉法人修光学園 飛鳥井ワークセンター 1976年生まれ。京都府在住。

『遠山の金さん』を描いてほしいと母にねだったところ、自分で描いてみたら？と勧められ、絵を描き始める。自身で描く楽しさを発見して以来、日々自宅で制作を続け、その作品は1,000点を超える。オイルパステルを用い、整然と並んだ食料品や、古いテレビ番組の一場面のほか、水平と垂直を組み合わせた色面のみで構成される抽象的な作品も手がける。



〈みかんと味噌〉

### 木村康一・KIMURA Koichi

所属・社会福祉法人修光学園 1976年生まれ。京都府在住。

ユーモラスな表情のカップや猿、あるいは、手足や目鼻など身体パーツが自在に組み合わせられた生き物などオリジナルの「妖怪」を制作している。小学生の頃に水木しげるの影響で妖怪が好きになり、模写を始め、次第にオリジナルのものを描くようになった。平日に通う施設では陶芸の立体物を作り、自宅では日々B5サイズの紙にドローイングを描いている。

〈タイトル不明〉



### 清水貴久・SHIMIZU Takahisa

所属・社会福祉法人かりがね福祉会 風の工房 1985年生まれ。長野県在住。

自身がコンビニエンスストアで購入したペットボトルやお菓子の箱などに、手描きの値札シールを貼っている。以前は、値札シールの貼られたそれらは清水自身の手によってきちんと分別され捨てられていたが、7年前のある時その行為に気づいたスタッフによりこっそりと保管されるようになった。現在では、値札の貼られたそれらは捨てられることはなくなり、清水の自宅にて保管されている。

〈タイトル不明〉 撮影:風の工房



### 富塚純光・TOMIZUKA Yoshimitsu

所属・社会福祉法人一羊会 あとりえずすかけ 1958年生まれ。兵庫県在住。

小さな筆に墨汁をたっぷりふくませて、文字を描く。その文字は読めない。頭の中にある空想の世界を訥々と語りながら、あつという間に物語は仕上がっていく。以前は、自身の記憶に忠実に物語を紡ぎ出していた富塚だが、現在では登場する団体名や人物は彼の記憶を基に実在はするものの、物語の内容はほとんどフィクションだ。斬新でおかしの深いその物語は、周囲の人を驚かせ喜ばせている。

〈馬鹿受け青春丸かじり英雄(ヒーロー)物語  
～下手な運動パーティー&医者のお話～〉



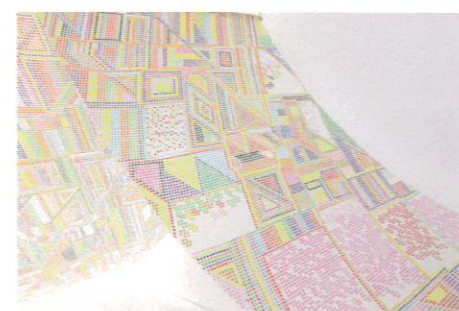
〈日記:2024年7月14日〉

### 長嶋柊・NAGASHIMA Tou

1998年生まれ。京都府在住。

2002年11月18日、幼稚園年少の3歳から長嶋の絵日記がはじまった。当初は文字も絵も描けなかったが、母が描いた下絵に色をのせ、鉛筆をもつ手を握られ文字を書かされたりするうちに、自身で描けるようになった。身近な出来事を独自の視点で表現し、オイルパステルで彩られる絵日記は、21年以上創作され続け、毎日母によってブログで公開されている。

〈日記:2024年7月14日〉



### 東本憲子・HIGASHIMOTO Noriko

所属・社会福祉法人ノーマライゼーション協会 西淡路希望の家 1983年生まれ。大阪府在住。

通所する西淡路希望の家の美術部の活動にて、月に3回制作活動を行なっている。以前はキャンバスや紙に絵を描いていたが、ある時これらの画材がない時に、支援員がプチプチ(気泡緩衝材)を渡すと、その突起を塗ってドット状の絵を描くようになった。カラフルに塗り分けられたプチプチのロールは25メートルにもおよび、最初は1本で7年ほどかかっていたが、2作目は40メートルを3年ほどで描きあげた。

〈無題〉 撮影:宮島徑 提供:ポコラート全国公募展vol.6

### ほんままい・HONMA Mai

所属・特定非営利活動法人希望の園 1984年生まれ。三重県在住。

21年前、希望の園に通い始めたことをきっかけに、油絵に触れるようになった。脳原生による運動機能障害により、ほんまの身体は自身のコントロールの範疇にない。しかし、ひとたびほんまが絵筆を取るとキャンバスには自由な線が広がり、色面は生き生きと発色する。絵筆を強く握り、毎日を新鮮に、近年のモチーフである「鳥」を色鮮やかに描き続けている。



〈耳を澄ますインコ〉



### 森田博康・MORITA Hiroyasu

所属・社会福祉法人からし種の会 緑の牧場学園 1963年生まれ。長野県在住。

生活している福祉施設内の自室で、夜な夜な服を破り、翌朝その服を来て登場する。2017年、長野県で開催されている障害のある方々の公募展「ザワメキアート展」で入選し、その行為は彼の表現として認知された。しかし施設での生活をしていくにあたり、彼が服を破り続けることで起きる困りごともあり、いわゆる「問題行動」と「表現」の間で、森田は服を破り、繕っている。

撮影:柳沢明夫

What are you doing now?